

第 6 6 回
東北地方交通審議会
船員部会議事要録

平成 2 6 年 4 月 1 8 日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会

第66回船員部会

日 時 平成26年4月18日(金) 15:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、村上部会長代理、箭内委員
労働者委員 : 高橋委員(欠席)、正路委員、野田委員
使用者委員 : 鶴本委員、佐藤委員(欠席)、湯村委員

運輸局 : 矢島海事振興部長、村木海事振興部次長
遠藤海上安全環境部船員労働環境・海技資格課長
鈴木海事振興部船員労政課長
佐々木労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(平成26年2月分)
資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
資料4 新規求人・求職数(全国)
資料5 有効求人・求職数(全国)
資料6 有効求人倍率(東北管内)
資料7 有効求人倍率(全国)
資料8 新聞情報
資料9 人事異動

議 事 概 要

◎開 会

【村木海事振興部次長】

議事に入ります前に、運輸局の方に人事異動がありましたので事務局からご紹介いたします。

〔別紙 異動者紹介〕

【矢島海事振興部長】

〔矢島海事振興部長挨拶〕

ただいまご紹介いただきました海事振興部長の矢島と申します。

日頃より、長谷部部会長をはじめ委員の皆様方には、海事行政、船員行政にご理解・ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

私ども海事振興部におきましては、現在のところ、いわゆる離職船員の再就職や、先の震災に伴います造船業の経営基盤の強化、また旅客船事業の完全復旧等々、数々の課題がございます。これらにつきましては、しっかりと対応していきたいと思っております。

また、私の個人的な話ですけれども、私は東京、本省におきまして、海事行政については長く経験はしてきているのですが、こと船員につきましては初めてでございます。このようなところからも、皆様方の東北地方における実情とか、またご意見等をお伺いいたしまして今後の施策に反映していきたいと考えております。その点につきましてもよろしくお力添えのほどお願いしたいと思います。これをもって私のはじめの挨拶としたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【村木海事振興部次長】

〔第66回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用状況等について

〔船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ありがとうございました。質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

【野田労働者委員】

資料5の全国の有効求人求職の表で、平成23年では求職の方が多かったんですが、25、26年になって求人の方がぐっと増えています。この主な要因は何ですか。

【鈴木船員労政課長】

先月の部会でも同様の質問があったと思いますが、前回、清水委員が言われたように、高年齢の船員さんがやめる時期に来ていて、そのせいで求人が増えている状況が続いています。現在その影響が出ていると思われます。

【野田労働者委員】

求職の数は大体殆ど一緒ですね。（「はい」の声あり）。

【長谷部部会長】

ちょっと大きな転換の時期にあるということが、こういうところで数値になって出ているということでしょうかね。

それでよろしいですか。（「はい」の声あり）ありがとうございます。

他にご意見、ご質問等ございますでしょうか。

ございませんでしたら、ご承認いただいたということで、次に進めさせていただきたいと思います。

(2) その他

【長谷部部会長】

続きまして、議題(2) その他、意見交換、情報提供ということですが、委員の皆さん、お願いいたします。

労働者委員、いかがでしょうか。

【野田労働者委員】

先月、海員組合の中央交渉ということで、今、交渉に出ている内容について報告があったんですが、新聞情報にもあるんですけど、3月31日をもって内航関係、大型カーフェリー関係、妥結しました。妥結内容としては、全内航、2団体とも

標令給1,000円アップ、全内航の方のボーナスは、年間認定、ボーナスなのですが、昨年0.9アップの39.4割、2団体の方が昨年同じく0.9割増の42割ということで妥結しております。

また、日本長距離フェリー協会の方の労海務部会が、大型カーフェリーなんですけども、これも3月31日に妥結しました。妥結内容とすれば、標令給を1,000円アップということで妥結しております。以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございました。これは労働側としては勝利なんですか。

【野田労働者委員】

勝利は勝利なのですが、陸上の方のベースアップを見れば8,000円、9,000円というのもあって、比較すると若干少ないでしょうから苦しい状況なんですけど、1,000円を勝ち取ったということは大きな評価だと思います。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

他にはよろしいですか、正路委員。（「はい」の声あり）

それでは、雇用者側の方から何かございますでしょうか。久しぶりに鶴本委員、お願いいたします。

【鶴本使用者委員】

部会長に久しぶりと言われたんですが、出席率が一番悪いということで、言い訳を言わせていただきたいんですけども、実は長年腰痛に苦しんでおりまして、去年の12月に立っていることもできなく、歩くことも困難になりまして、これは限界だなと思ひまして脊柱管狭窄症という手術をしまして、何とか正常に戻りつつあります。そういうことで、今後少し出席率を上げなければと思っておりますが、いかんせん貧乏暇なしなものですから、色々ご容赦いただくこともあるかと思ひます。

私からは、気仙沼の船主協会の所属船の乗組員の確保・育成状況について、ご報告申し上げたいと思っております。

遠洋マグロ、近海マグロ、それから遠洋カツオー本釣り、それから遠洋カニ籠、漁船取締船など、震災のあった平成23年3月11日以降ですけど、合計で63名を確保したといひますか、乗船者は内定を含めて63名で、下船者は15名だったんです

ね。取締船を除いて、定着率ということではないですが、確保したのは60%ということで、以前と流れが変わってきたように私は感じております。

理由としては、我が船主協会の会員並びに職員の地道な努力、1つは学校訪問であるとか、求人票の送付、それからインターネットのPR活動、ブログとかフェイスブックとかツイッター、これらが有効な感じがしております。それから、漁業就業支援フェア、東北運輸局主催のフェア参加とか講師の派遣活動など、地道な努力が実を結んでいるのかなと思います。

それ以上に注目されるのが、若者たちの漁業に対する意識の変化があるような感じがします。平成15年から21年まで、学卒者を含めゼロだったんです、応募が。それが平成21年からは1~2名ずつ徐々に増えているというような傾向があって、乗った人も漁船が楽しかったということをお話していたようでございます。4人に1人が派遣という労働環境にあって、20代、30代、4代になっても依然として派遣で終わりがたくない、自分はそういうふうになりたくないというような考え方もあるようです。漁船は実力次第で資格も取れ、それに伴って収入も増える、それから重要な仕事もできるというような考えもあるようです。

それから、船内にも後継者を育てなければ自分たちの職場もなくなるというような危機感がありまして、船内で育てていこうとするような、いい空気もあるように考えております。

これらを持続して、何とか漁船漁業を維持していきたいと思っております。以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。いい意味での雇用状況が生まれてきたという話だと思えますが。

【鶴本使用者委員】

これがいつまで続くものか、ちょっと様子を見なければわかりませんが、いい感じがしているなと私は感じております。以前はちょっと考えられなかったような感じだと思います。

【長谷部部会長】

清水委員が言っておられたことだと思うんですが、それに対して何かございますか、正路委員。

【正路労働者委員】

実は、先日いわき海星高校の方に行きまして卒業生の状況について懇談したんですが、実はいわき海星高校については、あまりそういうような雰囲気というのはまだ根づかないみたいですね。本科生についても船舶への就職というのはかなり少ないみたいです。ただ、専攻科生については、かなりの方が漁船ではなく内航船に就職というようになっているそうです。ですから懇談の中では、できるだけ本科生の生徒へも漁船に乗るような教育をお願いしますということを話しています。

【鶴本使用者委員】

漁船に乗ってくれるというのは、さっきもお話ししましたように、派遣社員とかアルバイトとか、陸上の就職関係も大変厳しい状況にあるとういことではないかなと思っています。進路情報なんかでも、気仙沼の状況についての記事が載っておりますので、後で見ただければと思います。

【長谷部部会長】

気仙沼といわきの違いということもあるんですか。

【正路労働者委員】

というか、いわきの方に行って自分でも感じたのが、原発の関係でいわき市の人口のうち4万人ぐらいが原発避難者だそうです。それで、税金を納めていない人が4万人ぐらいいるんですが、その避難者の子供も市内の高校に通っていて、あまり就業意識がないのか、親自体もそういうような雰囲気があるそうです。

【長谷部部会長】

就業意識がない？（「はい」の声あり）

【鶴本使用者委員】

やる気をなくしているんですかね。

【正路労働者委員】

あと、これはこの場に全く関係ないのですが、実は今、いわき市では住宅事情がかなり厳しい状況です。それは、震災被災者の方が1人に対して、1軒部屋が与えられるようになっているそうなんですが、契約をしても入らず、親と一緒に住んで生活しているという方も結構いるみたいです。ですので、空き家もかなりあるんですが契約は一応されている、というのもあるそうです。

【長谷部部会長】

モラルなんですね。（「はい」の声あり）

【鶴本使用者委員】

気仙沼の場合は、全国の方から応募があるみたいですね。私の方の漁船といいその流れがあったからで、今後持続してくれればいいかなと思います。

【長谷部部会長】

やはり気仙沼といわきの違いなんですね、気仙沼は健全な復興をしつつあると。

【鶴本使用者委員】

気仙沼はまだいい方だと思うんですけども、とにかく今の状況は、魚価安に燃油高ですよ。燃油高の高どまり、それから乗組員不足で、私事なんですけれども、うちでも新造船、造くんなきゃならないんですけども、今後の乗組員を考えると、当然こう一歩前に進めないような感じを受けるんですね。

でも、こういうようなちょっと明るいニュースがあったということで。

【長谷部部会長】

可能性は色々ありますから。（「ええ」の声あり）ありがとうございます。

それでは、湯村委員の方からはいかがですか。

【湯村使用者委員】

さきほど燃料油の話がありましたけども、内航の方は同じ高値の燃料油を使って運航しているんですが、なかなか運賃にその分を転嫁できていないというのが今のところの実情のようです。

船員については、先日ちょっと九州の方に出張したんですが、向こうの船主さんはみんな船員不足を深刻に受けとめていて、東北には、まだまだ船員になりたいという人がいますよというお話をしましたら、じゃあ今度行ってみようかな、なんていうような話も聞けたんですけど、今日の説明にもありました状況を見ても、東北の求職者を何とか西の求人者と結びつける方法はないものかなと感じていました。

話は変わりますけども、なかなか新造船、造り替えが進まない内航業界だったんですけど、ここ2～3年、荷物の需用、貨物も増えてきたという状況もあって、2013年には113隻ぐらいの建造申請があって、これは3年連続で100隻を超えているんだそうです。今なかなか内航船を造れる造船所も数少なくなっていて、建造には非

常に苦勞するところなんですけども、それでもこれだけの船が毎年できてきているということで、ちょっと将来にも希望を持てるのではないかなと思っております。

【鶴本使用者委員】

3年連続というと、アベノミクスには関係ないんですね。

【湯村使用者委員】

関係ないです。やっぱり震災、景気が落ち込んでいる状況だったので、一時期、今持っている船を使えるだけ使って、あとはもう廃業しようかなんてというような考えを持っていた人が多かったんですけど、ここに来て荷物も増えてきたという状況から、じゃあ、造り替えてもう少しやってみようかというような状況が生まれてきたと。

【鶴本使用者委員】

すると、復興需要ですか。

【湯村使用者委員】

ええ、何か東北だけじゃないんですよね、今。もちろんオリンピックの需要もあるし、色々各地の老朽化した施設を造り替えるには、色んな、内航船の働ける場が出てくるので、そういった状況、そういった方向に導いてくれているんじゃないかと思っております。

【長谷部部会長】

湯村委員の会社の方も、大体そんな状況、認識でいらっしゃるんですか。

【湯村使用者委員】

ええ。もう、とにかく忙しいのは忙しい。利益なき多忙ですけど、忙しいのは忙しいですね。ただ、最近気になるのが船舶の事故とかトラブルが結構増えてきているんですよね。忙しくて船員さんも疲れがたまっているようですが、船員不足ということもあってなかなか休暇も取りづらい、与えづらい状況があるので、その辺のことはちょっと真剣に考えていかないとなりません。

セメント船、うちじゃなく他社ですけど塩釜沖で座礁した船もありましたし、船同士が衝突して沈んでしまったセメント船もあります。ちょっとした本当に些細な原因で結構、例えば東京湾で中国の自動車船が給油中に油をばらまいちゃって、東京湾に今油が浮いているんですね。部分的によどんで油がたまっている場

所があって、うちの船はそこで荷役しなければいけないんですけど、そこに入ってしまうと船足にも油がついて油膜状態になります。あとタール状のものがこのくらいの大きさになって漂っているんですよ。それが付着したりすると、バラスト水でそれを吸い込んでしまうと、他の港に行ってバラスト水を排水したときに海洋汚染になっちゃうんですよ。それで今大変な状況なんです。

そういった船に関わるトラブルが多発しているような状況ですね。

【長谷部部会長】

ちょっと大きな変動期なんですね。

【湯村使用者委員】

そうなのかもしれません。

あのフェリーもね、韓国の船が…。(「転覆しちゃったですね。」の声あり)

【長谷部部会長】

どうもありがとうございます。まだら模様でちょっと大きな変化が見られるということでしょうか。貴重なご意見ありがとうございます。また、今後ともさまざまな情報をお寄せいただきたく存じます。

他にございますでしょうか。公益委員の方々はいかがですか。まだちょっと時間があるかなと思って。

【箭内公益委員】

では一言、皆さんのお話しをお聞きして気になるのは、気仙沼と小名浜では大分実情が違うのが気になっていて、気仙沼の方では色んなPRであるとかネットであるとか、さまざまな活動を通して注目が集まるようにしていて、小名浜では、そういった何か外に向けての発信のようなものはされているんですか。

【正路労働者委員】

そこまではいっていないみたいです。ただ、就職担当の先生については、色んなところに窓口を広げようということで活動はしているんですけど、漁船会社よりも内航の船主さんの方に窓口を広げようとする活動はしているみたいです。ですので、先ほど私が言ったように、まず本科生については漁船の方にということをPRしてくれと。実は、水産高校なので内航船でも全く受け付けないところもあるそうです。うちの会社は水産高校の卒業生はとりませんという内航船、内航の会社もあるそうです。それで困っています。

【箭内公益委員】

新聞記事に書かれているんですが、一番最後のページに、震災被災地としての気仙沼、震災以降漁船員志望者が増加とあります。被災地ということで、全国でも注目を浴びているんだけど、表現は悪いですが、被災地間格差のようなものが出始めてくると、これはこれでまた問題かなと思いました。

【正路労働者委員】

実は、1週間ぐらい前だったと思うんですけど、いわき市長もテレビの方だったかな、マスコミに関して実はちょっと愚痴をこぼしてしまった例があったようです。というのは、先ほど言ったように、4万人の原発避難者がいわき市にいますけど、税金も払っていない、ただ市の色んなサービスは受けているということで、前からの市民の方から色々苦情も出ているそうです。ですので、国であれ、県であれ、どのような方向性なのかというのを示してほしい。そうしないと、市の方も財政がパンクしてしまうということで、実は今、市の中でも復興へのアピールというものができずに、内部でもごちゃごちゃ状態というような状況です。

【長谷部部会長】

市の方にはそれぞれ別個にお金が流れているので、パンクってことはないんだと思うんですが、私が調べている中では。

【正路労働者委員】

というのは、いつまでその状態が続くかということですか？

【長谷部部会長】

宙ぶらりんってことなんでしょうか。

【正路労働者委員】

はい、市民の方からも色々苦情が出て大変みたいです。ゴミを出すのから、もう3年ぐらい経つんだから慣れるのかなと思ったんだけど、全くだめみたいですね。ちょっとイメージ的にはよくないです。

【長谷部部会長】

よろしいですか。（「はい」の声あり）どうもありがとうございました。

他にございませんか。

ございませんでしたら、意見交換、情報交換ということで、それぞれご承認い

ただいたということで、本日の議事は終了とさせていただきますと思います。

◎閉 会